2022 年度（令和 4 年度）

事業報告

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

指定管理事業者

一般社団法人京都市ひとり親家庭福祉連合会

2022年度京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす
全体事業報告

指定管理事業者　一般社団法人京都市ひとり親家庭福祉連合会

【ひとり親家庭支援の現状と課題】

２０２０年初頭からの新型コロナ感染症防止対策に関する本格的な規制は、ひとり親家庭を直撃し、深刻な影響を与えた。景気悪化に伴う事業の縮小に伴う時短措置や事業閉鎖による失業が増加し、そのため収入が激減し、生活費に困窮するケースが多く見られた。

また、子どもの休校により、仕事を休まざるを得なくなったり、食費や光熱費の生活費に占める比率が上がり家計を圧迫。また、家にいることで親子共にストレスを抱え込む、といった悩み相談が途絶えることがなかった。社会経済全体が打撃を受ける中、養育費の不払いや滞納が頻発し、感染対策から面会交流などにも支障をきたして大きな影響が出た。「コロナ感染症の影響で養育費が止まり、食費や教育費を大幅に削減しないといけなくなった」「在宅時間も多く、物価も上がり、精神的にも金銭的にもしんどい」などの相談が数多く寄せられた。こうしたことから、生活や将来に向けての不安が募り、ストレスから体調を崩すケースも多かった。

我が国のひとり親家庭を取り巻く社会や経済における諸問題には、非正規雇用や経済格差、子どもの貧困や教育、女性の社会的地位の低さなど、社会が抱える問題が集約された形で存在している。以前からクローズアップされてきた『子どもの貧困問題』や『貧困の連鎖』について、経済問題や雇用問題、福祉政策などが、将来に向けて改善すべき社会全体の問題として複合的に関連している。不安定な非正規就労、低収入、住宅、面会交流・養育費、子育て環境・教育に関する悩みなど、ひとり親家庭は多くの問題を抱えている。

国のひとり親家庭の自立支援の取組みとして、「子供の貧困対策に関する大綱」を踏まえ、①教育の支援、②生活の安定に資するための支援、③保護者に対する職業生活の安定と向上に資するための就労の支援、④経済的支援という 4 つの柱に沿って推進されている。

コロナ禍に導入された施策として、就職に有利な資格の取得を促進する高等職業訓練促進給付金の対象資格拡充や入学準備費用等に関する貸付金制度、自立支援プログラム策定者に対する住居費支援としての「住宅支援資金」等が整備された。また、児童扶養手当と障害年金の併給調整の方法が見直され、ひとり親の障害年金受給者が、児童扶養手当の額と障害年金の子の加算部分の額との差額を受給できるようになったこと等が挙げられる。

厚生労働省が令和５年５月９日に発表した３月の毎月勤労統計によると、物価の変動を反映した働く人１人あたりの「実質賃金」が前年同月と比べて２．９％減り、１２カ月連続の減少となった。厚生労働省は「賃金は伸びてはいるものの、物価高に追い付いていない状況が続いている」としており、非正規雇用が約半数を占めるひとり親家庭においては、賃上げやベースアップの影響は極めて限定的なものと思われる。

また、生活費については、これまでの資源高・円安を背景とした輸入コスト高騰の影響が食料品等の小売価格に波及する動きが続き、原材料費高騰を受けた価格転嫁の動きが食料品を中心に当面続くとみられるほか、報道によると春以降には電気代値上げも予定されているとのことである。

令和５年４月１日より、ひとり親家庭支援は従前の厚生労働省の所管を離れ、内閣府の外局として設置された「こども家庭庁」に移管された。今後は、こども家庭庁支援局家庭福祉課・企画官（ひとり親家庭等支援担当）が政策推進を担い、こども家庭庁の事務に関しては、内閣府特命担当大臣が置かれ、所掌事務について関係する行政機関に資料提出や説明を求め、勧告を行う権限を有する、とされている。

こども家庭庁は、こども（心身の発達の過程にある者をいう。以下同じ。）が自立した個人としてひとしく健やかに成長することのできる社会の実現に向け、子育てにおける家庭の役割の重要性を踏まえつつ、こどもの年齢及び発達の程度に応じ、その意見を尊重し、その最善の利益を優先して考慮することを基本としている。また、こども及びこどものある家庭の福祉の増進及び保健の向上その他のこどもの健やかな成長及びこどものある家庭における子育てに対する支援並びにこどもの権利利益の擁護に関する事務を行い、内閣の重要政策に関する内閣の事務を助けることを任務としている。

【2022年度ゆめあす全体報告】

ゆめあすでは、ひとり親家庭の「経済的な安定（仕事・収入）」、生活における安定（子育て、対人・社会関係）、精神的安定（相談・交流・安心）の実現を支援の３本柱として、支援目標ガイドラインとしている。

感染防止対策からの活動自粛が続いたため、電話やメールによる相談・問い合わせが増加し、対前年比１２５％増となった。経済的困窮や精神面での不調に関連する相談が多く寄せられた。コロナ禍対策として新規で創設された各種経済支援制度については、制度に関する具体的・個別的な問い合わせが多く、担当機関の窓口担当者に頻繁に照会を行いながら相談支援を行った。また、相談者の精神状態に応じて、心の問題等を取り扱う専門機関への相談を勧めた。コロナ渦では、SNS、電話、メール、オンライン面談などの間接的な手段を使って対応した。参加定員制限を行う中、ひとりでも多くの方の参加を実現するため、ZOOM と現場でのハイブリッド型就職・準備セミナーを試験的に導入し、自宅に居ながらセミナーが受講できる体制が実現した。

また、職員の相談能力の向上に向けて、相談者の様々な背景や困難、実態を丁寧に聞き取り把握するため、カウンセリング研修等の専門研修を実施した。

●2022年度 相談事業内訳

就労相談	766 件	一般相談	1,053 件	法律相談	63 件	計 1882 件

※内・面談 238 件　　※内・面談 274 件　　※重複有り。

【ゆめあす事業内容】

「京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす」は、母子家庭・父子家庭・寡婦の、自立や

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

就労に向けた支援に総合的に取り組むため、京都市が設置した施設である。ひとり親家庭の自立のための足がかりとなる事業を中心に、各種相談、仕事に役立つ講習会・セミナーの開催、ひとり親家庭同士の交流や情報交換を行う事業等を実施している。

ゆめあすにおける事業の中核をなしているのは、ひとり親の就労と生活の自立を支援する「就業・自立支援センター事業」である。この事業では、就労と自立をテーマに、個々の母子・父子家庭の状況、職業適性、就業経験等に応じ、適切な助言を行う就業相談の実施、就業に必要な知識や技能の習得を図るためのパソコン関連の就業支援講習及び各種セミナーの開催、ハローワーク等職業紹介機関と連携した就業情報の提供など、一貫した就業・自立のための支援サービス提供を行っている。

●ゆめあすの主な機能

1．相談全般（就労・労働トラブル、法律、養育費、面会交流、調停、離婚前相談
子育て問題、民事問題、社会保険相談等）→専門家、関係各機関との緊密な連携

2．講座の開催（パソコン、就労支援セミナー、パソコン講習会ほか）

3．交流事業（ママカフェ・交流会・レクリエーションほか）

4．講習会事業（給付型奨学金セミナー、養育費・面会交流講習、生活支援講習、発達に応じた子育てセミナー等）

1．総合相談機能

・離婚(死別・未婚、離婚前の既婚者含む)後の→ 生活・仕事・住居・子育て・教育・奨学金・養育費・面会交流・債務・財産分与・調停等について。センター相談員（社会福祉士・社会保険労務士・行政書士の資格者等）が対応。

・法律相談離婚前後の親権、婚姻費用、子の認知、慰謝料、財産分与、離婚調停、養育費や面会交流にかかる法的措置、調停など)女性弁護士等が対応

2．就労支援機能①

・就業相談と就労支援

・就労・自立センター事業(就業相談、職業の紹介、情報提供、就労・自立支援に必要な助言等)

・仕事を探す時にまず重要なこと(能力・キャリアの棚卸し→職業適性や経験を生かす個別のアセスメント・支援計画・事後のモニタリング・計画の見直し等)

・就労に向けての様々な相談(子育てとの調整→勤務場所・就労時間帯・保育園や児童館へのお迎え時間・収入・ワークライフ・バランスへのアドバイス)。

・就職準備作業の支援(職務経歴書の書き方や面接時のアドバイス、仕事メイク講座等)。

・自立支援プログラムへの参加(当事者のための個人プログラムの策定。当事者、ハローワーク、ゆめあすの連携による就労促進)。

・リクルート用スーツの貸出。

2－1．就労支援機能②

・知識やスキルのアップを目指す

・就職に役立つパソコン講座や就労支援セミナーの開催

・就職準備セミナー年間１５回程度パソコンスキルの底上げセミナー、コミュニケーション力を高めるセミナー、
・パソコン講習会(職務スキルのアップ・週一回３時間×９日間(27H)でワンクール。年に３回実施)
・ハローワーク巡回相談（就労ナビゲーター来所による相談）他

３．交流機能

レクリエーションによる親と子のファミリーネットワーク事業・母親同士の交流会「ママカフェ」・センター職員との信頼関係の醸成(気軽に相談できる体制作り)等他

４．生活に役立つ機能

ひとり親のための「生活支援講習会」「着物貸出し事業」「リユースコーナー設置」等

【ゆめあすが目指す支援の３要素】

１．経済的安定実現への取り組み（就労相談・キャリアアップ、講習会事業など）
２．生活における安定・安心を実現する取り組み（子育てに関わる相談、法律相談等）
３．社会的・精神的孤立を防ぐための取り組み（一般相談、交流事業・生活支援事業等）

【ゆめあすの特徴】

ひとり親家庭支援センターゆめあすでは、生活に困窮する人から経済的に安定している人まで、その利用者層は非常に広く、相談・支援内容は経済問題からこころの問題まで多岐にわたる。離婚前の相談や未婚の母からの相談、就労相談、法律相談、講習会・セミナー、親子レクリエーションなど、多彩な事業を実施・展開している。相談窓口には２名の女性就業相談員(うち社会福祉士１名)を配置しており、様々な相談に対応する体制となっている。離婚・養育費・面会交流、家事法、民法等の専門的な法律問題については、女性弁護士による定期的な法律相談会を開催しており、その他の社会保険や労働問題に関する相談には、社会保険労務士・行政書士資格をもつ職員が対応できる体制を整えている。関係各機関と連携しつつ、相談者の意向や自己決定を尊重した相談支援を実施している。

2022 年度　相談事業報告書（①就業相談）

【事業目的及び実施状況】

母子家庭の母及び父子家庭の父並びに寡婦に対し、就業・自立支援センター事業の一環として就業相談を実施。ひとり親家庭では、育児と家事、家計の維持をひとりで担うため、労働環境の制約を受けたり、労働条件面で困難を伴うことが少なくない。そのため、家庭状況の丁寧な聞き取りや就業への阻害要因の把握に努め、適切な助言と支援を行うよう努めている。相談時には、ひとり親の高等職業訓練促進給付金や自立支援教育訓練給付金等の事業の案内、起業や在宅ワークといった幅広いキャリア支援情報、適切かつ迅速な求人情報、就職支援講座・セミナー情報を、相談者の状況に応じて適宜、提供している。毎週木曜日には、ハローワークの就職支援ナビゲーターと連携し、相談者のニーズや状況に応じたきめ細かな就業支援を定期巡回として、個別に相談実施している。

・自立支援プログラム事業について

就業相談の柱である自立支援プログラム策定事業は、児童扶養手当受給者等を対象として、希望者に対し個別の自立支援のためのプログラムを策定している。

①個別に面接を実施②本人の生活状況、就業への意欲、資格取得への取組等について状況把握を行う③個々のケースに応じた支援メニューを組み合わせた自立支援プログラムを策定④プログラムに沿った支援状況をフォローする⑤プログラム策定による自立後もアフターケアを実施。以上の流れで、就労により自立した状況が継続できるよう支援を行っている。

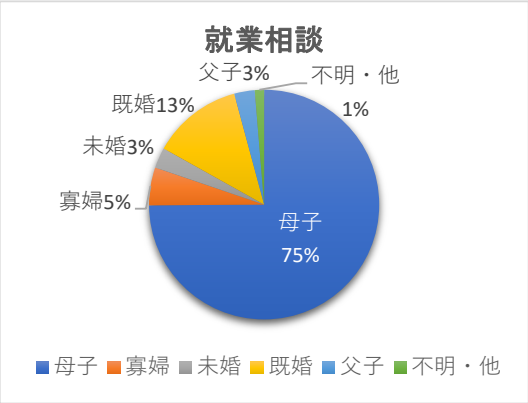
2021 年 9 月より開始された『住宅支援資金（ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業)』は、自立に向けて意欲的に取り組むひとり親家庭の親に対し、家賃相当額を貸付し、自立支援プログラムの目標達成と、その状態の一年間の継続という 2 つの条件を達成すると償還免除となる事業である。開始後間もない事業のため、貸付を所管する京都府社会福祉協議会とケースに応じて協議できる体制を構築し、密接な連携のもとに進めている。

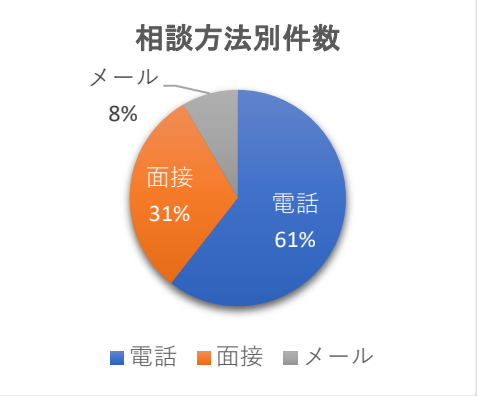
・相談支援実施状況（就業相談）について

相談支援概要

１．就業相談・区分別件数

就業	母子	寡婦	未婚	既婚	父子	不明・他	計
電話	350	22	15	57	17	3	464
面接	191	15	5	21	6	0	238
メール	34	2	0	20	2	6	64
計	575	39	20	98	25	9	766





相談件数合計 766 件の約 6 割が電話相談、3 割が来所による相談。電話・面接相談ともに前年度比 120～130%増。メール相談は約 2 倍の増加となっている。世帯状況別にみると、母子家庭が 7 割以上を占めており、ついで離婚を前提とする既婚者からの相談が 1 割弱となっている。

年齢別相談件数

年齢	件数	割合
20未満	0	0%
20-24	20	3%
25-29	53	7%
30-34	42	5%
35-39	146	19%
40-44	97	13%
45-49	103	13%
50-54	98	13%
55-59	49	6%
60以上	2	0%
不　明	156	20%
合　計	766	

年齢別にみると、35 歳以上 39 歳未満が 146 件と一番多く、次に 45 歳以上 49 歳以下の 103 件と続く。前年度は 50 歳以上 54 歳以下が一番多く、50 代の割合が一番多かったが、今年度は 30 代が前年度比 7%増で一番多い。これは、小さな子どもを育てる女性からのコロナ渦における相談が多かったことによる。40 代はほぼ横ばいで、35 歳から 54 歳までの層が厚く、この年齢帯でほぼ均等に相談がある。

行政区別相談件数

居住区	件数
伏見区	133
左京区	114
北区	98
右京区	92
西京区	58
山科区	47
上京区	42
中京区	27
下京区	26
東山区	23
南区	12
府下・県外	12
不明	82

行政区別の相談件数は、伏見区、左京区、北区、右京区が多く、南区、東山区、下京区、中京区が少ない。アクセスの利便性や他の相談機関の立地が影響していることなどがうかがわれる。

新規獲得経路

経路	件数
福祉事務所	19
チラシ・パンフレット	5
ホームページ	37
ファミリー・生活支援	0
特別相談	1
講座・セミナー	1
京都市母子寡婦会	1
家族親族	1
知人・友人	7
ハローワーク	16
京都市の他の施設	1
京都府の施設・テルサ	0
市民しんぶん	10
他	0
不　明	33
計	132

相談内容傾向（重複あり）

内容	件数
就　職	289
転　職	115
資　格	288
キャリア相談	190
労働問題・仕事の悩み	69
コロナ関連	18
子育て相談	296
教育相談	106
住居相談	120
自プロ・住宅資金貸付	103
債務・借金問題	25
生活・困窮	74
児童扶養手当	38
養育費	65
面会交流	20
DV	27
離　婚	120
調停	27
センター事業内容の問合せ	128
親族間もめごと・悩み	26
心身の不調	263
未婚の方出産・認知	11
給付金・奨学金について	37
その他	3

新規相談者がゆめあすを知る経路として、ホームページが一番多く、続いて福祉事務所、ハローワークとなっている。我が国ではスマホの保有率やインターネット利用率が 80%を超えていることから、今後もホームページや検索エンジンからの情報入手の傾向が高まるものと予想される。また、コロナ渦においては、社会的に行動制限が加わったことにより、デジタル情報へのアクセスが加速するきっかけともなった。今後はホームページの定期的見直しを含めて、検索キーワードの精査など、発信の質を高める継続的な工夫に努めたい。

相談内容は、就職・資格・キャリアに関する相談が多く、続いて、子育て、教育関連へと続く。また、相談時に心身の不調を訴えられることも多く、収入、仕事、家庭、等の問題の底部には、ストレスを抱えた当事者の心身の健康という要素が大きな位置を占めていることがわかる。また、仕事の相談で来所した相談者が、一般相談、法律相談に関わる問題を複合的に抱えているケースが目立つ。当初の相談内容から、当事者が置かれている状況の全体像を把握できるよう発展的に対応することで、総合的な問題解決へと進めるよう心がけている。

2022 年度　相談事業報告書（②一般相談）

【事業目的及び実施状況】

ひとり親家庭の福祉増進と子どもの健全な育成を図るために、総合的な相談窓口として、電話・対面・メールにより個々のひとり親家庭の状況に応じた次の支援を行う。

① 家庭紛争、結婚その他の諸問題に関する相談支援
② 住宅、子育て、就業など生活基盤上の諸問題に関する相談支援
③ 離婚直後など、地域で安定した生活を営むための精神的支援
④ 親子関係、児童の養育に関する諸問題に関する相談支援
⑤ 環境的な原因又は親子の性格に起因するもの等精神的、身体的な問題を抱える者への相談支援
⑥ 自助グループの養成
⑦ その他ひとり親家庭等の自立に必要な支援
⑧ 児童扶養手当の受給、生活費、養育費、教育費、医療費等経済上の諸問題や借金等による経済的困窮に関する相談支援等
⑨ 福祉、保健、医療等の関係機関との連携・調整

・一般相談について

今年度の相談件数合計 1053 件の約 6 割が電話相談、3 割弱が来所のよる相談となった。電話相談件数はやや増加し、面接相談件数は前年度比 1. 6 倍増、メール相談件数は前年度比 2.5 倍増。世帯状況別にみると、母子家庭からの相談が全体の割弱を占めており、既婚者からの相談対応も 20%あるが、比率は前年度とほぼ同様である。

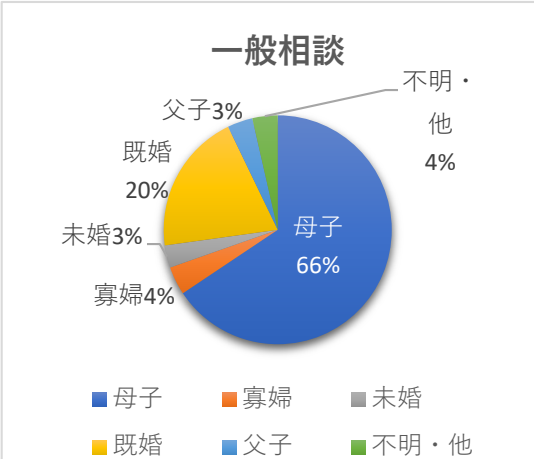
相談内容では、育児に関する相談が最も多く、その次に離婚（前後）問題へと続く。育児単独での相談はわずかであるが、他の内容と併せての相談として上がることが多い。同様に、他の問題の相談時に、心身の不調を訴えるケースが多くなっており、明らかな不調を覚えるほどの精神的ストレスを抱えた相談者が多いことが分かる。心身不調は、発達障害や精神疾患などへの悩みや問題も含み、社会生活においてうまく適応できない等により日常生活に支障が出ていることの相談が増えている。

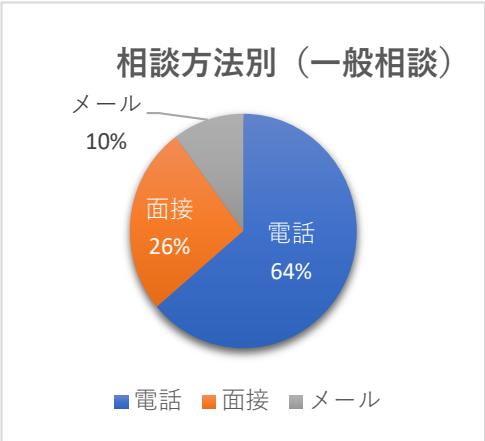
誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の共生社会の実現と「ソーシャル・インクルージョン」（社会的包摂）の理念から「インクルーシブ教育システム」を推進する国の方針により、障がいの有無にかかわらず、子どもたちの多様性を尊重しながら、孤立することなく、排除されないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う、という理念の実現が目指されている。そのためには様々な社会基盤整備と心のバリアフリー（内閣府資料より）が必要とされているが、現実の問題は様々にあり、相談対応は手探りとなることが多い。経験者の話や同じ悩みを持つ保護者の話が解決の糸口になることも多いため、2023 年度には、子育て関連支援を実施する NPO 活用

法というテーマで、市民活動総合センターより講師を招き、ママカフェの開催を予定している。また、今後の相談対応に活かせるよう、京都市発達障害者支援センター「かがやき」において実施された発達障害理解を深める研修会に、センター相談員 2 名が参加した。

相談種別・世帯状況別相談件数

一般	母子	寡婦	未婚	既婚	父子	不明・他	計
電話	448	21	21	134	26	22	672
面接	192	16	9	43	14	0	274
メール	60	4	0	29	0	14	107
計	700	41	30	206	40	36	1053





相談内容別件数（重複回答）

離婚	債務	経済	住居	DV	児扶手	子育て	養育費
227	30	83	157	33	44	398	145
面会交流	問合せ	親族悩み	心身不調	コロナ関連	給付・奨学金	その他	
60	186	32	334	22	63	19	

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす　2023/5/31

2022年度　京都市ひとり親家庭無料弁護士相談事業報告（年間集計2022.4～2023.3）

① 相談件数

2023/5/11

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月	
5日	19日	8日	22日	7日	21日	4日	25日	1日	15日	5日	26日	3日	17日	7日	21日
3	1	4	4	3	3	4	2	0	0	3	3	4	3	3	3

12月		1月		2月		3月	
3日	17日	16日		6日	20日	6日	20日
0	3	4		3	4	4	2

年間累計	63

②相談者の種別・行政区別相談件数

	北	上	左	中	東	山	下	南	右	西	伏	その他	計
母子	8	1	1	3	0	3	0	2	2	2	3	1	26
父子	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
未婚	0	0	8	0	0	0	1	0	1	0	0	0	10
既婚	2	1	6	2	2	1	0	1	3	2	2	1	23
寡婦	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	10	2	17	7	2	4	1	3	6	4	5	2	63

③年齢別相談件数

	10代	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60以上	不明	計
母子	0	0	0	5	6	5	1	5	3	0	1	26
父子	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
未婚	0	0	1	3	4	1	0	1	0	0	0	10
既婚	0	0	1	2	4	5	5	2	3	1	0	23
寡婦	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	2	10	15	12	6	8	7	2	1	63

④内容別相談件数

	母子	未婚	既婚	寡婦	父子	計
離婚前相談	2	0	21	0	0	23
養育費	12	7	13	0	0	32
法律（経済）	5	8	11	0	0	24
法律（その他）	9	9	13	2	1	34
育児・生活	5	2	4	0	0	11
その他	2	0	0	0	0	2
計	35	26	62	2	1	126

⑤相談経路

	母子	未婚	既婚	寡婦	父子	計
福祉事務所	0	1	5	0	0	6
ひとり親応援パンフ	2	0	4	0	0	6
子育て応援パンフ	0	0	0	0	0	0
ひとり親センターチラシ	3	1	1	0	0	5
ホームページ	15	3	10	2	0	30
ゆめあす通信	0	0	0	0	0	0
連合会	0	0	0	0	0	0
ファミリー	0	0	0	0	0	0
就職準備セミナー	0	0	0	0	0	0
パソコン講座	0	0	0	0	0	0
就業相談	2	4	3	0	2	11
知人友人	1	0	0	0	0	1
親兄弟	0	0	0	0	0	0
市民しんぶん	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
不明	3	1	0	0	0	4
計	26	10	23	2	2	63

⑥相談者の子の人数

	0	1人	2人	3人	4人	その他	不明	計
母子	0	12	12	1	0	0	1	26
父子	0	1	1	0	0	0	0	2
未婚	3	7	0	0	0	0	0	10
既婚	0	13	8	0	1	0	1	23
寡婦	0	1	1	0	0	0	0	2
計	3	34	22	1	1	0	2	63

内訳	
1. 裁判中	2
2. 調停中	6
3. その他	55
計	63

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

2022 年度　パソコン講習会事業報告

【事業目的及び実施状況】

就職活動において求められるパソコンスキル。仕事に使える技術を習得することで、職業選択の幅を広げ、職務能力の向上を目的とする。転職や就労中のステップアップ、資格取得等に役立て、収入アップを図り生活の向上をめざす。保持するスキルレベルに応じて『はじめてパソコン講座（基礎)』『就業支援パソコン初級（Word・Excel)』、経理事務に対応した『パソコン会計ソフト入力講座』の３つの講座を開講した。

就業支援パソコン講座は一年に 27 時間講座を 3 回開催。参加者が参加しやすいよう、全回とも週末に設定し、土曜日 2 回と日曜日 1 回の開催とした。『就業支援パソコン講座初級』修了者には、京都市長名による修了証書を授与する。また、オプション講座として、希望する職種として最も多い事務職のうちから、経理業務について、実際に会計ソフトを使いイメージを持ってもらい、就職活動等に役立てる講座を 9 時間枠で設定した。

はじめてパソコン講座（基礎講座）　3 時間×2 回＝6 時間

対象：パソコン操作が初めての方

講座内容：キーボード操作・タッチタイピング・フォルダとファイル操作・インターネット・メール

受講料：無料　（テキスト代 500 円）

パソコン初級講座（Word・Excel の事務処理操作に必要な知識）　3 時間×7 回＝21 時間

対　　象：「はじめてパソコン講座」修了者または、同レベルの方

講座内容：Word・Excel の初級（ファイル操作・ビジネス文書作成・表の挿入編集・画像や図形の活用・印刷・関数の利用・グラフの作成・データベース機能）

受講料：無料　（「Office2016」テキスト代 1,000 円）

パソコン会計ソフト入力講座　3 時間×３回＝9 時間

対　　象：簿記の知識があり（簿記 3 級程度、就職準備セミナー『簿記入門講座』受講済みの方、パソコンの基本的な操作ができる方）

講座内容：会計ソフト（弥生会計）の基本操作と経理実務の日常処理の基本

受講料：無料　（「コンピューター会計初級」テキスト代 1,000 円）

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

・年間講座実施状況詳細

はじめてパソコン講座（２回連続講座）

	第1回		第2回		第3回	
	5/14	5/21	8/27	9/3	1/29	2/5
定　　員	15	15	16	16	15	15
応募者数	7	7	17	17	18	18
受講者数	5	3	10	9	16	15
託児人数	1	1	1（欠席）	0	1	0
保育士	1	1	1	0	1	0

パソコン会計ソフト入力講座（全３回連続講座）

	11/6	11/13	11/20
定　　員	16	16	16
応募者数	19	19	19
受講者数	13	14	13
託児人数	4	4	4
保育士	1	1	1

初級パソコン講座（全７回連続講座）

	第1回							第2回							第3回						
	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	9/10	9/17	9/24	10/1	10/8	10/15	10/22	2/12	2/19	2/26	3/5	3/12	3/19	3/26
定　　員	15	15	15	15	15	15	15	16	15	15	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	16
応募者数	8	8	8	8	8	8	8	18	18	18	18	18	18	18	21	21	21	21	21	21	21
受講者数	7	5	6	6	5	5	5	13	13	12	14	14	14	15	15	13	14	15	14	14	13
修了証書授与者数	6							15							14						
欠席者数	1	3	2	2	3	2	2	3	2	3	1	1	1	0	1	3	2	1	2	2	3
託児人数	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1（欠席）
保育士	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1

※第2回講座 9/10のみ参加で辞退者1名あり。

【居住区別参加者人数】

居住区	はじめてPC	初級PC	会　計
左京区	4	8	0
北　区	2	3	2
右京区	6	9	1
上京区	3	3	1
中京区	1	2	1
下京区	0	0	1
西京区	4	1	3
東山区	2	1	0
山科区	3	5	1
南　区	1	1	2
伏見区	8	6	3
合　計	34	39	15

【年齢別参加人数】

	はじめてPC	初級PC	会　計
20歳未満	0	0	0
20代	1	2	0
30代	8	8	2
40代	11	13	8
50代	13	14	4
60歳以上	1	2	1
合　計	34	39	15

・はじめてパソコン講座・初級講座

〈第１回〉

はじめてパソコン講座は、定員 15 名に対し応募者が 7 名と、参加人数が低くなったが、参加者からの「講座の内容」や「テキストの見やすさ」は高評価であった。また、講座に対しての高評価の理由として、「PC が新しくなり使いやすい」といった声もあった。

パソコン初級講座は、定員 15 名に対し応募者は 8 名。毎回欠席者が出て、8 名全員が出席することなく修了式を迎えた。講座の前後 30 分を予習・復習の時間として確保しているが、今後この時間の周知を徹底し予習復習の機会を提供したい。

追加開催：6/18（土）11:30～12:30　初級講座開催前に京都府警本部サイバー犯罪対策課による「ネッ

トトラブル対策講座」を実施した。『不審メッセージ』対策講座は、本物そっくりのショートメールなど、ネットに関わる身近な危険について、タブレットを使用しての体験型講座であった。参加者が減少傾向にあるため、今後は定期ではなく単独か必要に応じての開催することとした。

〈第 2 回〉

はじめてパソコン講座は、応募者が 1 回目の 2 倍以上の 17 名に増加した。実際の参加者は 11 名で 6 名減少した。参加できなかった理由として、急に就職が決まった、コロナに感染した等の事情があったようである。今回も講座内容がわかりやすかったとの評価が多かった。開講日を勘違いした当選者や、受講当選結果（現状、郵送にて通知している）自体を未確認の当選者がいたため、今後はメール通知も加える等、周知方法を複数にするなどで対応したい。

パソコン初級講座は、参加者の約半数が講座後残って自習を希望したため、コロナ感染対策で 30 分としていた自習時間を 1 時間に戻した。開催時間の前にもいつも数人が自習されており、意欲の高い受講者が多く、全員に修了証書を授与することができた。

〈第 3 回〉

はじめてパソコン講座は、18 名の応募者があり、できるだけ多くの方が受講できるよう、定員を 1 名増やし 16 名で開催した。講座内容はわかりやすいとの評価が多くを占めた。

パソコン初級講座は、応募者 21 名と多く、はじめてパソコン同様に受講者を 1 名増やし 16 名で開催した。講座 1 時間前から自習する受講者もおり、全体的に熱心な受講者が多かった。

・パソコン会計ソフト入力講座（全３回連続講座）

対象は、簿記３級程度の知識があり、ゆめあすで開催する「簿記入門講座」を受講済みの人で、かつパソコンの基本操作が可能なこと。「弥生会計ソフト」を使用し、経理事務の入門レベルを習得する全３回連続講座。会計ソフトの基本操作と経理事務の日常処理を学ぶ。会計処理の基本についての説明後、実際に会計ソフトでの入力作業に取り組んだ。練習問題により、簿記の基礎から会計ソフトの基本操作や特徴、会計データの集計や活用に至るまでの理解を深めた。参加者からは、「簿記の復習から始めてもらえて有難たかった」、「会計ソフトを実際に使用し、仕訳の復習も出来てとても良かった」と好評であった。簿記の理解度については参加者間でレベル差があり、講師が個々に対応することが多かった。

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

2022 年度　就職準備セミナー事業報告

【事業目的及び実施状況】

厚生労働省の「ひとり親家庭就業・自立支援事業実施要項」に基づき、就職・転職に必要な技術の習得、自己啓発等を行うことを目的とする。就労経験が少ない、離婚後間もなく何から手をつければ良いかと悩んでいる、パソコンスキルに不安を抱えている、コミュニケーションや対人スキルに自信がない、生活力の向上や収入アップを望む等、ひとり親家庭の親への情報提供及び意識啓発の機会として、専門的知識ある講師による講座を開催。

今年度も引き続き新型コロナ感染症対策を徹底し、定員制限を行いつつ、13 回のセミナーを実施した。長机一台に２名着席の場合はアクリル板の仕切りを設け、教室内は飲食禁止とし、廊下部分に飲食・休憩場所を設置した。入館時の手指消毒、検温の徹底、常時換気を実施した。受付、教室出入り口、廊下等の数カ所に消毒用アルコールを設置した。就労やお金の問題、収入増に結びつくテーマに対する関心が高い。

・申込参加状況・保育状況

	セミナー名	開催日	曜日	時間	場所	申込人数	参加人数	託児申込	託　児	保育士
1回	強みを見つける自己分析	5月29日	㊐	13:30-15:30	ゆめあす	14	11	9	6	3
2回	在宅ワークの基本	6月19日	㊐	13:30-15:30	ゆめあす	11	会場　4 オンライン6	3	3	2
3回	仕事に役立つ差込み印刷講座	7月10日	㊐	13:30-15:30	ゆめあす	10	10	2	0	2
4回	仕事に役立つExcel講座 ①IF関数で条件処理	7月17日	㊐	10:30-12:30	ゆめあす	20	14	3	3	1
5回	仕事に役立つExcel講座 ②VLOOKUP関数	7月17日	㊐	13:30-15:30	ゆめあす	19	15	3	3	1
6回	ひとり親家庭就職情報セミナー	7月29日	㊎	13:30-15:30	ハローワーク 烏丸御池	8	6	2	2	1
7回	ひとり親家庭のためのライフプランセミナー	9月11日	㊐	13:30-15:30	ゆめあす	30	会場　15 オンライン11	5	4	2
8回	簿記入門講座	10月30日	㊐	10:30-16:30	ゆめあす	23	19	4	4	2
9回	事務処理UP↑ポイントセミナー ①Word	12月4日	㊐	10:30-12:30	ゆめあす	24	13	3	2	1
10回	事務処理UP↑ポイントセミナー ②Excel	12月4日	㊐	13:30-16:30	ゆめあす	24	12	3	2	1
11回	医療事務入門セミナー	1月15日	㊐	10:30-16:30	ゆめあす	28	21	3	1	1
12回	経営センス養成講座	1月22日	㊐	13:30-15:30	ゆめあす	13	10	4	2	1
13回	コミュニケーション能力 トレーニングセミナー	3月11日	㊏	10:30-16:30	ゆめあす	13	11	2	2	1

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

セミナー参加者居住区

左京区	23
北区	25
右京区	25
上京区	16
中京区	5
下京区	4
西京区	27
東山区	4
山科区	13
南区	3
伏見区	27
無回答	6
合計	178

参加者年齢層

20代	5
30代	24
40代	87
50代	49
60歳以上	5
無回答	8
合計	178

・各セミナー内容詳細

第１回　強みを見つける自己分析

SP（サブパーソナリティー）トランプを用いて、グループワークを行った。SP トランプは各カードにさまざまな性格がプリントされている。そのカードの中から自分に該当するカードを選び、他のメンバーは発表者が選んでいない発表者の残りのカードから１枚を選びその理由を説明する。自分から見た自分と他人から見た自分について考えるきっかけを作り、多面的な自分を探ることで、日常や仕事に対する自身の傾向を再確認したり、新しく発見することにつながった。一方で、もう少し踏み込んだ内容を期待する声もあった。内容が自己分析から、それを活かした就職活動まで広範囲に渡ったため、時間的な制約もあることから、今後はテーマをより絞り込む等検討の余地あり。

第２回　在宅ワークの基本

自営型テレワーク（在宅ワーク）を始めるための基礎知識や心構え、気をつけるポイントなどをテキストに沿って詳しく解説。ゆめあす会場と ZOOM によるオンラインのハイブリット開催。在宅ワークとはどのようなものか、メリット・デメリットなどを知るところから、具体的な業務例や業者の選択、トラブル時の対応など、基本的なことを学んだ。講義後、会場では質問用紙、オンラインではチャットを利用して講師と直接質疑応答する時間を設けた。東京の講師と京都の会場を繋ぎ、ZOOM によるセミナーは初の試みであったが、事前に技術的な練習を重ね、当日は大きな問題もなくスムーズにセミナーを進めることができた。会場の反応やアンケートから「在宅ワーク」は関心も高く、今後の期待値も高いのがわかる。子育て中であることや、副業により収入増など無理のない範囲で就労を始めたいというひとり親には有効な手段と考える。今回の内容に対しての満足度も高いため、今後も在宅ワークについての情報提供を実施したい。また今回は ZOOM を使ったオンラインと会場との同時開催という新しい試みであったが、今後、ZOOM の使い方講座の開催も検討していきたい。

第３回　仕事に役立つ差込み印刷講座

パソコンによる、文書作成や郵送時に便利な宛名やラベルの作成を身につけ、仕事に活かす。パソコン初級講座修了後のさらなるレベルアップを目的として開催。講師が事前に作成したデータファイル（Excel）を利用し１件のみ自分でデータを追加した。そのアドレスデータ（住所録）を使って、

Word の差込み印刷で宛名ラベルを作成した。保存後、印刷画面で確認し、プリントアウトする。時間の余裕があれば、レターの差込み印刷も行う。
実際に仕事で使っているという人もあり、簡単に感じた人もいれば、難しいと感じた参加者もあった。このセミナーの受講条件を「(ゆめあす就労支援）初級講座修了者もしくは同等レベル」としていたが、かなり以前に初級講座を修了した人、など条件を満たさない参加者もいた。そのため講師が個人指導に時間を取られてしまい、宛名ラベルのプリントアウト、レターの差込みまで至らなかった。それでも講座の進行がゆっくりで丁寧だと、アンケートでは好評だった。

第４・５回　仕事に役立つ Excel 講座　①IF 関数で条件処理　②VLOOKUP 関数

① Excel の関数を使いこなし、仕事の効率化を目指す。IF 関数を使い、複数条件を処理する。「就労支援パソコン初級講座」修了者に、さらなるスキルアップをして、就職やキャリアアップに活かせるようにする。講師が事前に作成したデータファイル（Excel での架空の売上データ）を利用し、複数の条件を組み合わせたデータを作成していく。複数の条件でいくつかの練習問題が用意されており、すでに仕事で慣れている人は次々と練習問題を解いていき、途中で難しいと感じた人は、講師に質問することで丁寧に個別指導を受けた。それぞれが自分のペースで受講できたので、アンケートでも少し難しかったとしつつも全員が「とても良かった」「良かった」と答えていた。

② Excel の関数を使いこなし、仕事の効率化を目指す。別表から値を取り出す VLOOKUP 関数を使って、元になる表を検索し、その中から合致するデータを転記出来るようになる。「就労支援パソコン初級講座」修了者に、さらなるスキルアップをして、就職やキャリアアップに活かせるようにする。全体の説明後、VLOOKUP 関数を使った練習問題を繰り返す人、分からないところを理解できるまで講師に質問する人など、それぞれのペースで受講できた。アンケートの結果、今現在、仕事で VLOOKUP 関数を使っている人は理解も早く、課題をこなし、各自で練習問題を繰り返すことで「分かりやすかった」「とても勉強になった」と満足したようだ。一方で、難しいと感じた人もいたが、講師に丁寧に教えてもらったと答えている。全体的にはこのセミナーへの参加を全員が「とてもよかった」「よかった」と回答した。

第６回　ひとり親家庭就職情報セミナー

ハローワーク西陣の協力のもと、烏丸御池庁舎にて公共職業訓練やマザーズハローワークについて知る。ゆめあすと連携したひとり親家庭の就労支援による具体的な就職事例を紹介することで、就労意欲を高めることを目的として開催。京都市ひとり親就労支援（ゆめあす就労相談員)、ハローワークの説明、公共職業訓練の説明（職業訓練担当)、マザーズハローワークの説明（マザーズハローワーク担当)、就職事例／質疑応答（個別対応）という内容で行った。全体の説明が少し長くなり、時間の都合で最後の個別相談ができなかった参加者もいたが、おおむね積極的に質問が出来ていた。マザーズハローワークのセミナーにもその場で申し込むなど就労への意欲も高かった。職業訓練については、就職希望者だけではなく、転職を考えている参加者も熱心に質問していた。

第７回　ひとり親家庭のためのライフプランセミナー

お金との付き合い方は直接生活につながるものであり、特にひとり親にとってはシビアに求められる能力でもある。ひとり親の生活が潤滑に進み、職業選択や学費準備等に役に立つ情報を提供する。参加者全員に『暮らしとお金のワークブック』をプレゼント（Zoom 参加者には事前に郵送)。講師自己紹介／『暮らしとお金のワークブック』活用法／ライフプラン表をつくってみよう／キャッシュフロー表をつくってみよう／質疑応答（個別対応）お金を扱うためセミナーでは例を用いライフプランならびにキャッシュフロー表を作成することで、作表に慣れることを目標とした。ご自身の表は、自宅用ワークシートを配布しご自宅で作成できるようにした。参加者の年齢は 30 代前半から 50 代後半までと広範囲であり、興味のある内容も広範囲であったが、３大支出に基づいて基本的な情報を提供。講師がセミナー後も、無償でセミナー内容についての相談に応じた。

第８回　簿記入門講座

簿記の知識がない方向けに、簿記について知る機会となる講座として開催。
学びたいという気持ちを大切に、受講後にも個々に継続していただける様、経理業務についてテキ

ストに沿って学ぶ。講師紹介、簿記の基礎説明（簿記とは・簿記の最終的な目的)、勘定科目や仕訳・借方と貸方・簿記の５要素、貸借対照表・損益計算書作成等実践的に学ぶ簿記が全く初めての方には少し難しいと感じられる点もあった。
アンケートの回答では自分ではわからない事ばかりだったので参加して良かった、経理部に異動した為役立った、簿記資格を取得したいといった、就職・転職に役立てたいとの回答を多くいただいた。

第９・１０回　事務処理 UP↑ポイントセミナー ①Word ②Excel
Word・Excel 共に PC 初級講座修了者または同等レベルの方を対象に、より実践で役立つ内容の講座として開催し、受講者のスキルアップを目指し開催。

① 日商 PC 検定３級の内容に沿って、Word のより実務的な機能やショートカットキー等について学ぶ。自己の業務に利活用し、業務の効率化を図る。仕事でのスキルアップの為や就活や転職に活かしたいと受講され、ショートカットキーの使い方や普段使っていない機能を教わる事が出来て良かった等の声が多かった。もっと word 機能を教わりたい、ポイント UP 講座の回数を増やしてほしい、といった希望者が多く、継続必須の講座である。

② 日商 PC 検定３級の内容に沿って、Excel の実務的な関数・ピボットテーブル等について学ぶ。また、自己の業務に利活用する事が出来る内容。ご自身のスキルアップや転職に活かしたいと参加される方が多く、「先生の説明が分かり易い、実務では使用していない内容もあり学べて良かった。」「関数、図形、ピボットテーブル等慣れない事には時間がかかったが、教えていただけて良かった。」といった感想が寄せられ、継続必須の講座である。

第１１回　医療事務入門セミナー
医療事務の業務内容や資格について知り、就労に役立つ情報や知識を得る。社会で活躍したい、専門性を身につけたいといったきっかけから、可能性を知り、具体的に働くイメージを持つことによって就労への一歩を踏み出し、子育てと仕事の両立を目指す。①医療事務の学習から就職までの流れ（病院と診療所、業務内容、必要な知識とコミュニケーションについて）②環境・勤務時間等（医療機関による働き方の違い）③専門知識・保険・資格について（医療保険・学習の基本・薬の算定・資格取得までの道のりについて）の講義後は、体験談や質疑応答を行った。午前中は、受付・会計・診療報酬請求の業務内容の説明と、病院とクリニックの違いやそれぞれの勤務形態についての説明があった。午後からは医療保険（国民健康保険・協会けんぽ・健康保険組合・共済組合等）制度の説明、薬の算定の仕方（カルテの見方・レセプト入力と点検)、資格取得までの学習について詳しく説明された。例題による薬の算定では、参加者が興味深く算定に取組む姿が印象的であった。また、柔軟な働き方が可能である事や、求人需要がある事、長く働きキャリアを積む事でステップアップできる事等の説明があり、医療事務の仕事や資格取得への理解を深めることができた。

第１２回　経営センス養成講座
ビジネスシーンにおいても生活においても、問題はいつでもどこでも起こりえるため、問題が起こった時にどう考えればいいか、どう動けば解決するか、といった問題解決のアプローチを身につける。また、解決の方法を学ぶことで前向きに切り抜けていく力を養う。４項目の内容（1.問題（悩み）を解決するとは、2.解決の手順と作法、3.「心」を解きほぐすということ、4.問題解決のステップを作る）で講義を進め、その後３グループに分けて、グループワークを行った。
4.の問題解決のステップとは、まず悩んでいることを書き出す→それを論理的に分解し、問題を「事実」と「感情」に分けて考える→整理する→「願望」と「課題」がはっきりしたら道順を具体化する、という様に順序立てて考えていくという手法。目の前の「問題」を冷静に分析して、問題の本質を確かめることから取り組んだ。多くの場合、複数の問題が絡み合っているので、その場合は一つずつ解きほぐしていくことや、「どうしたらいいかわからない問題」は、自分で調べたり誰かに相談したりして答えを見つけ、「わかった」に変える、という手順を踏むことで、解決の糸口を見つけやすくなった。続いて、解決までのステップを明確にし、もしその問題が「答えはわかっているけれど、決断するのがしんどい問題」であれば、覚悟を持ち決断し行動することが大切とのアドバイスを受けた。参加者自身が書き出した問題が「解決」という結果に導かれ、とてもわかりやす

い手順で講義が進められた。「論理的」＝「分解して簡単にする」事や、時系列に整理をしていく事で、問題が自然に解決に至った。また、「問題」には、「感情的な部分」と「理性的な部分」の２つの側面があり、自分がマイナス感情に支配されている時は本質に向き合えるまでクールダウンする為の行動をとることや、冷静な分析ができる状態になってから理性的なアプローチをするなど、解決の具体的なイメージが持てるまでの手順が理解しやすい内容であった。見えない不安を「見える化」する、個人には限界があるので重荷はどんどん降ろす、三人の相談者をそばに置くなど、心を軽くしながら問題を解決する方法を身につけることができた。今後、さまざまな場面で応用が効く内容で、参加者からは前向きになれた、また聴きたい、などの感想が寄せられた。

第１３回　コミュニケーション能力トレーニング

社会の中で求められるコミュニケーション能力。その基本を学び、鍛えるセミナー。今年度は、相手を尊重しながら自分の意見を伝えるアサーティブなコミュニケーションについて学び、かつアサーティブなコミュニケーションを意識して、相手に自分の意見を伝えるようになる。ほとんどの参加者がコミュニケーションが苦手であり、良くしたいという動機をもって参加していた。職場環境の変化に伴い、コミュニケーション能力のニーズも変化する中で、アサーティブなコミュニケーションスキル、考え方のニーズが高まっている。アサーティブなコミュニケーションスキルをあげるためには、感情の源になっている物事の「捉え方」を意識する。感情は捉え方を通して起こるもので、相手の言動や出来事はきっかけ。どのように捉え、どのような感情を持つかすべて捉え方次第。感情は自らが選択した結果、その後に出てくる言動も自分が責任を持っている。コミュニケーションは対等であり、信頼関係構築のためには傾聴が大切。アンコンシャスバイアスは思い込みや決めつけといった無意識に潜むもので気を付ける必要があるといったことを学んだ。

・重点課題と改善点

今年度より、セミナーの申込方法を変更した。ここ数年来、先着順としていたが、今期より応募期間を設け、応募多数の場合は抽選としたことで、情報を遅れて知った人も参加可能となった。また、オンライン申込を採用したことで、申し込み時の時間が短縮でき、事務的な処理時間ならびに通信費の削減にもつながった。

改善点としては、抽選結果をメールでお知らせしているが、メール不着と訴える申込者が数例あった。送信時エラーが出る場合は発見につながるが、スパムフォルダに振り分けられた場合などは、なかなか気づけないことが多い。確認のために二重チェックできる方法を検討することとした。

託児希望の場合についても同様に、結果通知とは別に託児に関する確認メールを送り、返信がない場合は電話連絡をし、託児キャンセルが極力発生しないよう（保育士が待機状態になるため）にしたい。

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

2022 年度　mama*cafe 事業報告

【事業目的及び実施状況】

mama*cafe（ママカフェ）は、ゆめあすが企画し、母子家庭の母の交流と情報交換の場として、ひとり親家庭の就労支援の一環として平成 21 年より実施している。子育て中のひとり親の母が子ども連れで、他の当事者と語り合い、交流することで、悩みを共有し孤立を防ぐことも目標としている。

	開催日	テーマ	資料等
第１回	4月13日	新社会保険制度	「社会保険適用拡大ガイドブック」（厚生労働省・日本年金機構）
第２回	5月11日	乳幼児の親子対象	生理用品提供
第３回	6月15日	パートと正社員	「社会保障制度ご説明BOOK」
第４回	7月13日	乳幼児の親子対象「学費について」	「データブック 数字からみる人生のリスク」 京都府あんしん修学支援制度のご案内・京都府奨学のための給付金のお知らせ・奨学金一覧
夏休み企画	8月14日	夏休み特別企画 そろばん教室	そろばん組み立てキット配布
第５回	9月14日	乳幼児の親子対象	開催なし
第６回	10月12日	○○の秋！	食料提供（お米２kg）あり
第７回	11月16日	来年のカレンダーに夢を書き込もう	カレンダー・シール配布
第８回	2月25日	パパカフェ	フードパントリー（フードバンク京都）
第９回	3月15日	乳幼児の親子対象	リラックスグッズ（入浴剤・スープ等）提供あり
番外編①	11月5日	ひとり親女性のためのマネーセミナー	『くらしとお金のワークブック』配布 フードパントリー（フードバンク京都）
番外編②	12月11日	ひとり親女性のためのお悩み相談室	フードパントリー（フードバンク京都）

計１１回

・今年度の傾向と分析

今年度、のべ参加者数は、大人 45 名、子ども 20 名、合計 65 名（昨年度比大人 16 名、子ども 9 名の増加）となった。8 月はママカフェ夏休み企画として『そろばん教室』を開催した。夏休み期間中ということで、そろばん組み立てキットを使用し、親子で一緒に作って楽しく学べる時間を過ごせるよう計画した。日曜日の開催で、当初定員親子 8 組を大きく上回る 42 組の申込者があったため、参加枠を増やし親子 10 組で開催した。新型コロナ感染症の状況がオミクロンに移行したことで落ち着き始め、今年度はママカフェにおいても参加者が増加する結果となった。

・papa*café パパカフェ（父子家庭のための交流事業）

母子家庭の母親同士の交流の場としてママカフェを以前より開催していたが、今年度初めて父子家庭の父親同士の交流の場であるパパカフェを開催。2012 年にひとり親家庭支援センターと名前が変わり、

父子家庭の父親も利用可能になったが、この 10 年間母子家庭に比べると父子家庭の利用は少ないままである。パパカフェを通して、孤立を防ぎ父子家庭同士の交流の機会を提供することで、ゆめあすへの相談や利用への心理的ハードルを下げることをめざした。パパカフェ第一回目となる今回は交流会を主とし、育児中の男性臨床心理士チームをファシリテーターとして招き、食糧支援（協力・フードバンク京都）も実施した。普段の生活において父子家庭の父親と出会う機会はほとんどなく、他の父子家庭との交流を希望し参加されたが大半を占めた。「何十年と孤独を抱えてきたが、同じ状況の参加者の話を聞けて、自分だけではないと思えた」という感想が印象的であった。

・実施要項『パパカフェ』2 月 25 日（水）13：30～15：00　ゆめあす 2 階　技能習得室にて

参加者：5 名　申込者：6 名　託児：1 名　保育士：1 名

ファシリテーター：チームパパカフェ 3 名　濱田智崇（京都橘大学健康科学部心理学科准教授）　福島充一（一般社団法人日本男性相談フォーラム代表理事）　新道賢一（関西医科大学精神神経科学教室助教）　※初回のため、了承のもと女性相談員も在室した

2022 年度ママカフェ予約・参加人数（番外編除く）

	4月	5月	6月	7月	夏休み企画	9月	10月	11月	2月	3月	合計
予約大人	2	5	3	5	42	1	9	6	6	4	83
予約子ども	0	3	1	2	42	0	2	2	1	3	56
参加大人	2	3	3	5	10	0	8	5	5	4	45
参加子ども	0	1	1	2	10	0	1	1	1	3	20

参加者の年齢（アンケートより）

年齢	合計
20才未満	0
20～24才	0
25～29才	2
30～34才	1
35～39才	18
40～44才	9
45～50才	5
50才以上	9
無回答	1
合　計	45

参加者の居住区（アンケートより）

居住区	合計
左京区	8
北区	8
右京区	3
上京区	6
中京区	2
下京区	0
西京区	8
東山区	0
山科区	0
南区	2
伏見区	7
無回答	1
合計	45

番外編①　出張 mama*café 報告～つながるスペース（ウィングス京都にて開催）

『ひとり親女性のためのマネーセミナー』

ウィングス京都より依頼を受け、居場所づくり（ピアサポート）を目的として開催。

ウィングス京都では、コロナ禍の影響で孤独・孤立からの不安や困難・課題を抱える女性に寄り添い社会とのつながりを回復することを目的として、不安を抱える女性に寄り添った事業を実施している。

今回は「つながるスペース特別版」として、ひとり親家庭の交流・情報交換の場として、ゆめあすの企画・運営により当該事業に参画。

・日時：2022 年 11 月 5 日（土）　14：00～16：00　場所：ウィングス京都２F

講師　：夢のかけはし代表取締役　秋口千佳氏
　　NPO 法人日本 FP 協会 CFP®認定者・1 級ファイナンシャルプランニング技能士
参加者：19 名　（定員 20 名、申込者 29 名）託　児：10 名
・内容　ひとり親のライフプランの見直しや就労への意欲向上を目的としマネーセミナーを開催。
①14:00～14:10　自己紹介（テーブル毎）
子どもの年齢により 4 テーブルにグループに分け、悩みや不安の共有がしやすいよう工夫した。
②14:10～14:50　ファイナンシャルプランナーによるミニトーク
　ミニトークでは、「人生における 3 大支出」である教育費、住宅、老後のお話、「女性の働き方ケース別生涯所得」の資料配布があり、参加者それぞれが自分自身の状況に応じ、自分の将来設計に合わせた働き方を考え、マネープランの見直しが出来る内容であった。また、今後お金を増やすには、「収入を増やす」、「支出を減らす」といったファイナンシャルプランナー自身が実践する具体的な家計の見直しのアドバイスや、貯蓄・投資といった運用についてもポイント説明があった。　14:50～15:00　休憩
③15:00～15:30　参加者同士の交流会
　交流会では、各テーブルにファシリテーター（ゆめあす職員 2 名とウィングス京都 2 名）を配置し、疑問点や不安に思っていること等を聞き取り、活発な質疑応答が出来るようにした。
④15:30～16:00　ファイナンシャルプランナーへの質疑応答
　講師より丁寧な回答があり、参加者の疑問も解消し、今後の目標設定が出来たと好評であった。
最後にフードパントリー（フードバンク京都より食品提供）を行い終了。
・今後の課題
　参加者のアンケートからは満足度が高く、「お金の収支により関心を持ち、今後の見直しができた」、「同じ立場の人たちと悩みを共有でき、話が尽きず参加して良かった」といった感想が寄せられた。今後の課題としては、「投資についてももう少し聞きたかった」といった声もあり、お金の運用についてもう少し詳しく内容を盛り込んでいく等の検討も加えたい。

番外編②　出張 mama*café 報告　第 3 回つながるスペース『ひとり親女性のためのお悩み相談室』（ウィングス京都にて）

　ウィングス京都より依頼を受け、居場所づくり（ピアサポート）を目的として開催。ひとり親家庭支援を行っている 3 団体（ゆめあす、ひとり親家庭サポートセンターこもれび、京都市ファミリーサポートセンター）の取組みについて各団体が紹介。悩みや問題を共有できるよう、参加者の子どもの年齢に応じ 4 グループに分けて交流をした。対象が 20 歳未満の子を育てるひとり親女性のため、現状「ひとりの時間がない」「日々のストレスが蓄積している」との声が多かったが、交流後は「知らなかった施設の情報が聞けたので利用したいと思う」「悩みを聞いてもらえて気持ちがスッキリした」等の感想が寄せられた。利用できる制度を知らずにいる方もあるため、利用を促進する上で大切な機会となった。仕事と育児をひとりで行うため負担が大きいひとり親にとって、孤独感・疎外感を取り除き、悩みを理解し共有できる交流は参加者の支えになっている。就労支援・自立支援制度の活用は、貧困の連鎖や教育の格差の問題の改善につながることを期待したい。特定非営利活動法人フードバンク京都協力による食品無料配布を行い終了。
日時：2022 年 12 月 11 日（土）　13：00～15：00　場所：ウィングス京都２F
参加者：18名（定員20名　応募者24名　欠席者2名）

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

２０２２年　ファミリーネットワーク報告書

【事業目的及び実施状況】

ファミリーネットワークでは親子で楽しめるイベント、交流会を中心に、参加家族同士の交流を目的として企画している。２０２２年度もコロナの状況をみて、一定の距離を保ち、人数を随時調整しながら行った。そのため各回に参加人数のばらつきがある。七五三撮影会などは着物の着回しを避けるために半数の人数で行った。調理やバス移動などは避けてきたが、次年度は引き続き一定の間隔は保ちながら、親睦を深めるような取り組みをしていきたい。
※以下、コアイベントの概要を記載。

・新小学１年向けランドセル贈呈

今年度は日本ケイテム様よりランドセル１０個を京都市ひとり親家庭福祉連合会にご寄贈いただき、ひとり親家庭の子ども達に贈呈した。３月１２日に日本ケイテム様もご来館いただき贈呈式を行った。贈呈式後はプロのカメラマンによる写真撮影会を行い、親子一緒に撮影した。

・クリスマスケーキプレゼント

コロナ禍における行事開催のあり方を考え、密を避けることを最優先してクリスマスケーキプレゼントを昨年に続いて実施。応募家族は親子１２８組にも登り、抽選で選出した。サンタとの写真撮影に加え、子どものおもちゃと親へのプレゼントも用意した。HP よりの声掛けで個人の皆様による寄付金２５，０００円（総額）をいただいた。

・七五三の撮影会

着付け、撮影時間を考慮し例年１２組限定としているが、このイベントについてもコロナ禍の為、着物の着回しと過密を避け６組限定とした。今年度はボランティアモデルによる撮影はできなかったが、例年はパンフレットその他に使用している。本イベントは着物貸付事業にも波及効果があり、広報効果と着物貸出件数増加の一助となっている。

・（生活支援講習ファミリーネットワーク共催）メンタルヘルス講座、ビジネス文書の書き方とマナー＋セルフハンドケア講座／株式会社パソナ協力

株式会社パソナの協力のもと、「メンタルヘルス講座」「ビジネス文書の書き方とマナー」を開催した。株式会社パソナからはセミナーをはじめフードドライブなどでゆめあすに協力いただいている。今回の講座では参加者全員にお菓子などもプレゼントしていただいた。

■年間イベント実施状況（令和４年４月～令和５年３月）

	事業名	開催日	時間	参加	場所	参加費
第1回	親子で京都水族館	5月28日	11:00～12:30	37名	京都水族館	大人700円、小・中高生300円、未就学児無料
第2回	親子で京都鉄道博物館	5月28日	14:00～	23名	京都鉄道博物館	大人500円、小中高300円、未就学児無料
第3回	サッカー教室	8月6日	16:00～17:00	26名	宝ヶ池フットサルコート	無料※お弁当付き
第4回	七五三撮影会	10月30日	10:30～12:00	13名	ゆめあす	子1人1000円
第5回	七五三撮影会	10月30日	13:30～15:00	8名	ゆめあす	子1人1000円
第6回	親子でコラボ！パソコンで年賀状教室	11月5日	10:30～12:30	20名	ゆめあす	無料※各家庭にお年玉年賀状20枚
第7回	親子でコラボ！パソコンで年賀状教室	11月5日	14:00～16:00	17名	ゆめあす	無料※各家庭にお年玉年賀状21枚
第8回	親子でクリスマスケーキプレゼント	12月11日	11:30～12:30	38名	ゆめあす	無料
第9回	親子でクリスマスケーキプレゼント	12月11日	13:30～14:30	38名	ゆめあす	無料
第10回	メンタルヘルス講座＋セルフハンドケア	2月4日	①13：00～14：30 ②14:50~16:20	15名	ゆめあす	無料
第11回	ビジネス文書の書き方とマナー＋基本のセルフネイル	3月4日	①13：00～14：30 ②14:50~16:20	14名	ゆめあす	無料
第12回	ランドセル贈呈式と写真撮影会	3月12日	①11:30～ ②12:00～	10名	ゆめあす	①贈呈式②写真撮影会
			参加計	259名	※ランドセル贈呈式は本人（1年生）の人数のみ記載	

実施内容詳細

第１回　親子で京都水族館へ行こう

昨年は緊急事態宣言の為、開催を延期としていたが開催の要望が多いイベントの為、感染対策を万全にして行うこととした。そのため集まっての記念撮影などは避けることとした。前回までは子ども達に安価なお土産などを渡していたが、その分を参加費を下げることで還元。水族館は完全に人数が確定した時点でしか団体利用の手続きを完了させてもらえない。水族館側からの要望で集合場所がその年によって変動することで参加者がスムースに集まれない。現地で参加費を徴収するため、時間がかかり入場が遅くなることが多い。上記を踏まえて次回開催からは事前決裁を導入する。

第２回　親子で京都鉄道博物館へ行こう

水族館と同じく昨年は緊急事態宣言の為、開催を延期としていた。開催の要望が多いイベントの為、感染対策を万全にして行うこととした。以前はお弁当付きであったが、食事は取りやめ、参加費を下げることで還元した。

以前よりガイドを付けて説明を受けながら、館内を回っていたが。現在鉄道博物館自体のガイドの制度は無くなっている為、個人（元 JR 社員）に依頼した。資料などもすべて作っていただき鉄道のことがよくわかる内容となっている。ジオラマ見学や、SL の乗車も盛り込んだため時間に間に合うように移動してもらわなくてはならない。SL などの乗車は入場とは別に手続きが必要となり職員は、バラバラで行動することとなった。今年度よりガイドシステムを導入したため、見学、移動共にスムースに行えた。特に SL 乗車は他のお客様にも迷惑がかかるため時間厳守となるが迷ってはぐれてしまう人もなかった。

反省点として小さな子どもは長時間の説明を聞くことは難しいため、ガイド付きは小学生以上に限定し、未就学児は個人のペースで回ってもらう方がよい。未就学児でも希望される場合は受け入れることとしたい。

第３回　サッカー教室

小学１～3 年生対象。当初は葵児童館グランドで開催を予定していたが、前日と直前に雨が降ったことでグランドが使えなくなったため、急遽宝ヶ池フットサルコートでの開催に変更した。コーチが指導されている Kosmos FC のこども４名も講習のお手伝いとして参加した。講習時間が４時～５時の為、帰宅時間がおそくなることと、本来は講習後に交流会を開催したかったがコロナの影響を考えお弁当を家族の全員分を配布することとした。参加者の中にはこのサッカー教室に通いたいと話す親子もあったが、通う手段、母の勤務時間などが問題となるとのことだった。

第４・５回　七五三撮影会（午前・午後）

ゆめあす貸し出し衣装を利用し、年齢に応じた着物を着付け、ヘアメイク等を施し、プロのカメラマンが撮影。撮影した写真は六つ切りでプリントし写真台紙２枚組に貼りこんで宅配する。すべての写真データの入ったＣＤＲも添付。撮影では一人での立ち姿、アップ、家族も入っての写真をとり、アルバムに貼る写真はポーズのみを指定していただき、カメラマンが写りの良い写真を厳選している。

今回は、落選した方が間違えて来館されたため、急遽追加で撮影を行った。下の子の年齢が２歳前半の為、着物の着用が困難であったが、うまく着付けをしてもらえた。

今回の撮影で許可をいただいた人のみ、ゆめあす通信で表紙に使用。

第６・７回　親子でコラボ　パソコンで年賀状教室（午前・午後）

郵便局の年賀状サイトを使って自作の年賀状を作成してもらう。

サイトからＰＤＦ保存ができるため各自作成したものを持ち帰ることが可能。

ゆめあすで用意したはがき（お年玉付き年賀はがき）をプリンターで出力（各家庭２０枚）。２０枚以上を希望された方には年賀状代のみお支払いいただいた。

親はうまくアプリを使いこなせていないようだったが、小学生高学年以上の子は簡単に作成することができていた。家にパソコンがない家庭や、パソコンがあってもうまく活用できていない家庭が多いようであった。

第８・９回　クリスマスケーキプレゼント

昨年よりさらに増加し１２８組の家庭から応募があり、当選が２０組のところを３１組に増やした。また、子どもたちのイベントであるにもかかわらず全員を当選させてあげられないため、落選の通知と共に各ご家庭に家族で使えるように入浴剤を送付した。イベントではサンタクロースに扮したボランティアの男性と一緒に写真を撮り、じゃがいも、にんじん、玉ねぎの袋詰め放題を行った。子どもが袋にどうすればたくさん入るか、どのように詰めるとよいかを考えて、たくさん持って帰ってもらえればと企画した。ケーキは引換券を渡し、徒歩５分にあるパティスリークリアンテールにて受け取っていただいた。

第１０回　メンタルヘルス講座＋はじめてのセルフハンドケア

セルフケアで心の健康を保つ

講師：株式会社パソナ　國平雅子氏

いつもの自分と違うことに気づくことや、ストレスで心、身体、日常の行動に現れる変化を知る。ストレスが体に与える影響やレジリエンス力（ストレスをうまく受け流す考え方。うまく付き合う方法）を学ぶ。ストレス度の自己診断、ライフチャートの作成、5 分でできる職場のストレスセルフチェックを行った。

講師：VENERE 原衣子氏

セルフハンドケアでは健康と爪の関係について爪の健康状態を保つことで、病気、痴呆の予防にもなる。ストレスの緩和にも役立つ。また自身の不調を見つけることにも役立つ大切な箇所であることを学ぶ。

第１１回　ビジネス文書の書き方とマナー＋はじめての基本ネイル

講師：株式会社パソナ　國平雅子氏

ビジネス文書の種類はどのようなものがあるか、なぜビジネス文書にするのか他　ファックスとメールを送るときの注意

パソコン（ワード）を使用し社内文書を作成

講師：VENERE 原衣子氏

2 月の講座での爪の健康についての復習と職場でも通用する清潔感のある基本のネイルを学ぶ

第１２回　ランドセル贈呈式＋写真撮影会・ランドセル贈呈式

ランドセル１０個を株式会社日本ケイテム様より京都市ひとり親家庭福祉連合会にご寄贈いただいた。

※株式会社日本ケイテム様より 4 名様来館。

京都市ひとり親家庭福祉連合会からは長時間保冷保温できる水筒をご入学祝いとしてプレゼントした。

・写真撮影会

カメラマン：金城写真事務

ランドセルを寄贈された子とその家族での写真撮影を行った。写真撮影には桜と風船の 2 パターンを用意。いただいたランドセルを背負って撮影。

撮影したデータは USB メモリに入れ、２L 版にプリントした写真を台紙に入れ郵送した。

写真撮影の際、待ち時間に交流会を開催。
※写真使用に同意していただいた方のみ「ゆめあす通信」に掲載させていただきました。

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

2022 年度京都市ひとり親家庭等生活向上事業報告

【事業目的および実施状況】

児童の養育や健康面の不安など生活の中に問題を抱えているひとり親家庭及び寡婦を対象に、生活において直面する諸問題の解決や児童の精神的安定を図るための生活を総合的に支援することを目的としている。

新型コロナの感染状況の緩和を見合わせ長江参加人数や配置・スペースに配慮しつつ、ファミリーネットワーク事業（親子交流事業）との共催事業を（年２回）取り入れながら実施。

下記の表に示す通り、「ミシンで手作り」は、空気清浄機の導入と合わせて講師と１対１の体制を取って前年度中止分の内容と合わせて３回実施した。

	事業名	講師	開催日	参加	母	子	父子
第 1 回	離婚について①	京都弁護士会	6 月 29 日	6	6	0	0
第 2 回	ミシンで手作り！（サコッシュ）	鈎　久栄氏	6 月	5	5	0	0
第 3 回	ミシンで手作り！（エプロン）	鈎　久栄氏	8 月	6	6	0	0
第 4 回	ミシンで手づくり！（保冷バック）	鈎　久栄氏	8 月	7	7	0	０
第 5 回	メンタルヘルス講座 はじめてのセルフハンドケア	パソナ ベネーレ原　衣子氏	2 月 4 日	15	15	2	0
第 6 回	離婚について②	京都弁護士会	2 月 24 日	5	5	０	0
第 7 回	ビジネス文書の書き方とマナー はじめての基本ネイル	パソナ ベネーレ　原　衣子氏	3 月 4 日	14	14	3	0
第 8 回	食育講座『フルーツサンド教室』①	鈎　久栄氏	3 月 25 日　午前	10	6	4	０
第 9 回	食育講座『フルーツサンド教室』②	鈎　久栄氏	3 月 25 日　午後	13	6	7	０
			合　　計	**81**	**70**	**16**	**0**

（このうち第 5.7 回は託児）

※第 5.・7 回は、ファミリーネットワーク事業とコラボとして実施。ファミリーの健康面から考えたハンドケア・ネイルの内容と合わせることで、関心度も高まり、参加者も単独の講習会より増加する結果となった。

第 2.・3・4 回は、ミシンを使用しての実習であるが、換気や蜜を避ける対策として講師と１対１の予約制をとることで、細かなところまでアドバイスを受ける体制が作れた。

１．令和 4 年度実施講習会の内容

①　⑥　離婚について

●ねらい　今年度も昨年同様６月と２月に開催した。コロナの影響による収入減少や面会交流が多様化していること等を踏まえ、昨年度同様の『養育費と面会交流』のテーマで実施した。

●課題　参加者の内訳をみると、離婚前調停中、調停がうまく進まない、養育費が滞っている、相手方から減額の提示があった、等の参加者が多かった。講座終了後に個別相談を設けているが、問題を抱えた方には有効である。開催のタイムスケジュールを午前セミナー、午後個別

相談から、午後にセミナーと個別相談に変更し、参加者の増加を試みたが、結果的には、変化が見られなかった。次年度は、土日開催も視野に開催日を検討したい。

②③④　ミシンで手作り

●②前年度コロナの状況を見て中準備のみしていたサコッシュづくり
③講師の提案デザインでおしゃれなデザインのエプロンづくり
④ペットボトルも丸ごと入る保冷バックづくり

仕事や家事に追われる日常の中で、自分自身の日常使いのできるものを自ら作る時間そのものが有意義な時間となり、出来上がった時の充実感を再認識されていた。

●課題

昨年度空気清浄機を購入し、講師対参加者の１対１を守りながらのスケジュールのため、実施期間に参加定員が少なくなったが、１対１の丁寧な対応が可能となり、参加者にとって満足のいく物が制作できる利点も見られた。次年度は、父子家庭の父用の企画も検討課題に入れたい。

⑤メンタルヘルス講座（生活支援）はじめての基本ネイル（ファミリーネットワーク事業）

●ねらい　≪セルフケアで心の健康を保つ≫

コロナ感染症の影響意向、家庭や社会におけるストレスが様々身体に影響を及ぼしていることを踏まえての企画として実施した。

●講座内容

ストレスに気づく⇒
ストレスに現れる心身の変化を知る⇒
ストレスと体の抵抗力の関係や影響を知る⇒
レジリエンス（ストレスを受け流す方法・うまく付き合う方法）を知る⇒
ストレス度の自己判断⇒
ライフチャートの作成（人生の 8 つの満足で何を高めたいかを知る⇒
５分でできる職場のストレスセルフチェック

●実施結果と課題

具体的な内容で分かりやすく、参加者自身それぞれの思いに合わせて受け止めて受講されている様子。また、ファミリーネットの「セルフハンドケア」では、自分でできるケア法の講習を受けることで、心身共にリラックス効果を得られて相乗効果をもたらすことができてよかった、との声が上がった。課題としては、ハンドケア資料の文字サイズや手を映し出すライトの明るさの加減など、試行錯誤の中の準備であった。次年度はスムーズに進行するよう手順書など整備したい。

⑦　ビジネス文書の書き方とマナー・はじめての基本ネイル

●内容とねらい

現職が事務職の方、転職で事務職を検討中の方に対しての基本的な内容を学ぶ。
1.ビジネス文書の種類　2.なぜビジネス文書にするのか　3.ビジネス文書の基本構成
４.社外文書とはなにか　5.頭語と結語、前文と末文　6.封筒とはがきの書き方
7.FAX とメールを送るときの注意点　8.メール構成について
以上の内容を実際にパソコンを使用しながら学んだ。

●実施結果と課題
参加者から質問も多く出て、日常の業務を行う中で疑問に感じていることなどを具体的に解決・解消できる良い機会になった。
また、ファミリーの『はじめての基本ネイル』では、２月の講座内容である爪の健康についての復習とともに、職場でも通用する清潔感のある基本ネイルを学んだ。爪の健康を保つとともに、よりよいメンタルを維持しつつ仕事に取り組むための基本ネイルを学ぶ機会となった。あわせて、シールやちいさなパーツを使用して簡単なネールアート体験も行えて参加者同士の交流も図ることができた。第５回のファミリーとの共催企画による相乗効果と参加人数の増加がみられた。次年度も継続開催したい。

⑧⑨　食育講座『フルーツサンド教室』

●内容とねらい
コロナ前は、食育講座として、料理教室も実施してきたが、ここ数年は感染症対策もあり開催を控えた。状況が若干緩和されたタイミングをみての企画となった。申込者の反響も多く募集期間が短期間にも拘らず多くの申し込みがあった。実際には、親子で簡単な作業ではあるが包丁を使用するため、人数と机の配置を考えた上で、安全第一に楽しめる企画として準備した。
●（材料 2 人分）
食パン１０枚切り 2 枚. クリーム（生クリーム 50ｇ. マスカルポーネ 50ｇ
さとう大さじ 1/2）好きなフルーツ（今回は、キウイ・いちご・バナナを使用）
●全体の流れ
クリームの泡立て作業は、事前に講師に準備をお願いした。完成したフルーツサンドをラップでくるんで包丁で切ることで型崩れせずに切りやすく、包丁も汚れずに試食の時にも食べやすかった。完成品をカットする前に 10 分間冷やし、その間に講師から、他のアレンジ方法や、クリームチーズの代替品の紹介など、調理のコツやポイントを学ぶことで、家庭にでも親子で楽しめるきっかけ作りにつながるようにした。
●感想
『購入すると高いし、フルーツも小さいので、今日は親子で思いっきりかぶりつきました。』『とても美味しかったです。』『家でもやってみます』という前向きな感想が多く聞かれた。

2. ひとり親家庭生活支援講習会・次年度に向けての課題

【講座全体】
コロナの感染対策上の状況は 5 月に大きく変化したが、ひとり親家庭の経済面、精神面にわたって深刻な影響が残っている。次年度も、ひとり親家庭の生活に役立つテーマを細やかに検討しつつ以前に実施したものも視野に入れながら、今求められているものを具体的に必要とされるものを参加する側の目線に合わせながら企画・準備していく。

【父子家庭のみの開催事業について】
今年度は、全９回を通して、父子家庭の参加がなかった。連合会主催のパパカフェでは 5 名の参加があったことを踏まえて、令和４年度の父子家庭会員の若干の増加も見られたため、よりニーズの高い企画を検討し、今後は参加しやすい曜日や時間帯を考慮した上で実施したい。

京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす

２０２２年度日常生活支援事業報告書

【日常生活支援事業の目的】

この事業は、母子家庭、父子家庭及び寡婦が、修学等の自立を促進するために必要な事由や疾病などの事由により、一時的に生活援助、保育サービスが必要な場合又は生活環境等の激変により、日常生活を営むのに支障が生じている場合に、その生活を支援する者（以下、「家庭生活支援員」という。）を派遣するなど、母子家庭、父子家庭及び寡婦の生活の安定を図ることを目的とする。

【事業実施状況】

２０２２年度は１月頃より徐々に新型コロナ感染症に対しての規制が緩和されつつあったが、新規依頼状況は増加することなく年度末を迎えた。

新規支援登録のみされる方、支援打合せ後に依頼の必要がなくなった方なども数名あった。また新規登録はしたものの、具体的に何を頼めばよいのか迷う依頼者もあった。

子どもはぐくみ室からの案内で支援を希望され、生活援助支援に入ったケースでは、打合せの段階でのコミュニケーションが円滑に進まず、支援員から辞退する事例も生じた。

【今後の課題】

支援員の平均年齢は６４歳と比較的高齢層が多い。３０～５０代（２３名）で登録されている支援員では、ほぼ全員が日中就労中であり、希望日、時間に出動できないケースが多い。本来、子どもの送迎や見守りがある場合、動きが激しい場面も想定されるため、年齢的には５０代までの支援員が支援することが望ましい。逆に居宅での家事や子の見守りについては、普通に体調管理ができていれば年齢面での問題は特に生じないものと思われる。支援には依頼者の居住地、子の年齢、支援内容、支援員の住所、年齢、等がうまく合致した場合にスムーズな支援が可能となる。依頼内容や通勤状況をよく理解した上で支援に入ることが大原則である。コロナ禍の状況では支援員が感染防止対策上、交通機関を使うことをためらわれるケースや、自転車などで行ける範囲を希望されることもあった。交通手段の少ない地域、依頼時間が早朝・深夜帯などでは、支援員とのマッチングが難しいケースもある。コロナ規制が解除されることにより、高齢の支援員でも元気に支援活動ができる環境となることが期待される。２０２２年度は支援員研修の一環として「メンタルヘルス講座」に５名が参加。今年度は支援に役立つ講座定員に余裕があれば、支援員の参加を促していきたい。

2022年実績

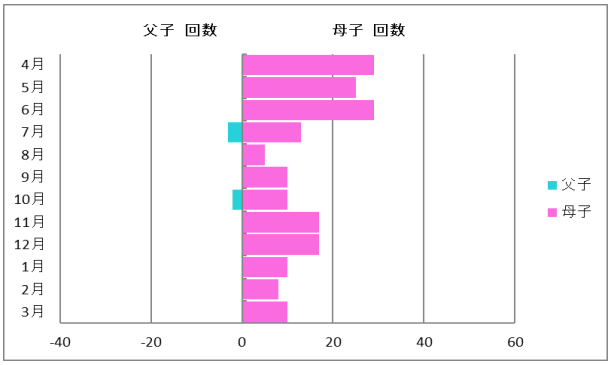
	生活支援							子育て支援								合計				
	回数	時間	6-9時	9-12時	18-22時	派遣手当	交通費	回数	時間	6-9時	9-12時	18-22時	時間(2人目)	派遣手当	交通費	回数	時間	派遣手当	交通費	計
			2,320	1,860	2,320					1,120	900	1,120								
4月	19	37		27.0	10.0	73,420	1,840		0				0	0		19	37	73,420	1,840	75,260
5月	9	13		9.0	4.0	26,020	1,840		0					0		9	13	26,020	1,840	27,860
6月	10	14		8.0	6.0	28,800	3,680		0					0		10	14	28,800	3,680	32,480
7月	22	28		14.0	14.0	58,520	2,760		0					0		22	28	58,520	2,760	61,280
8月	10	14		7.0	7.0	29,260	920	1	1			1		1,120	460	11	15	30,380	1,380	31,760
9月	14	19		5.0	14.0	41,780	4,600	2	2			2		2,240	920	16	21	44,020	5,520	49,540
10月	18	25		6.0	19.0	55,240	4,000	3	3			3		3,360	1,380	21	28	58,600	5,380	63,980
11月	21	31		4.0	27.0	70,080	8,640		0					0		21	31	70,080	8,640	78,720
12月	19	30		6.0	24.0	66,840	8,180		0					0		19	30	66,840	8,180	75,020
1月	10	16		4.0	12.0	35,280	4,460	2	2			2		2,240	920	12	18	37,520	5,380	42,900
2月	8	13		5.0	8.0	27,860	3,220	1	1			1		1,120	460	9	14	28,980	3,680	32,660
3月	10	15		5.0	10.0	32,500	4,600	2	2			2		2,240	920	12	17	34,740	5,520	40,260
合計	170	255	0	100	155	545,600	48,740	11	11	0	0	11	0	12,320	5,060	181	266	557,920	53,800	611,720

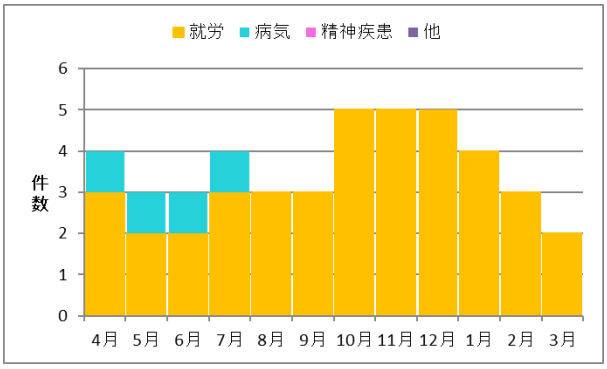
【支援活動内容】

【①生活支援】

【母子父子別】

生活	母子			父子		
	件数	回数	時間	件数	回数	時間
4月	4	19	37	0	0	0
5月	3	9	13	0	0	0
6月	3	10	14	0	0	0
7月	3	13	19	1	9	9
8月	2	5	9	1	5	5
9月	2	10	15	1	4	4
10月	4	10	17	1	8	8
11月	4	17	27	1	4	4
12月	4	17	28	1	2	2
1月	4	10	16	0	0	0
2月	3	8	13	0	0	0
3月	2	10	15			
計	38	138	223	6	32	32

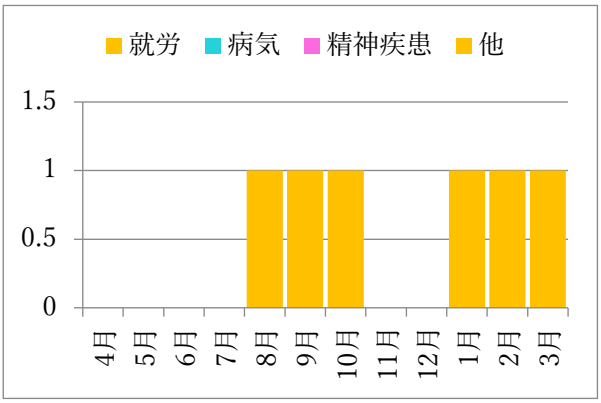




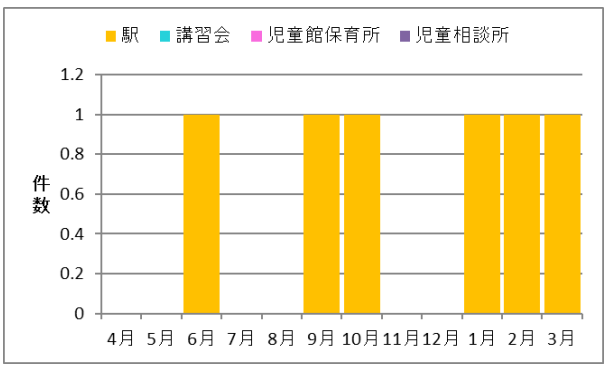
母子	38	138	223
父子	6	32	32
合計	44	170	255

【②子育て支援】

子育て	母子			父子		
	件数	回数	時間	件数	回数	時間
4月						
5月						
6月						
7月						
8月	1	1	1			
9月	1	2	2			
10月	1	3	3			
11月						
12月						
1月	1	2	2			
2月	1	1	1			
3月	1	2	2			
計	6	11	11	0	0	0



	件数	回数	時間
母子	6	11	11
父子	0	0	0
計	6	11	11



2022年度京都市ひとり親家庭支援センター利用者数

	大人	子ども	合　計
就業相談（一般相談含む）	766	10	776
特別相談	63	4	67
就職準備セミナー	178	34	212
mama＊cafe	45	20	65
パソコン講座	88	25	113
パソコン利用（相談時）	12	0	12
生活支援講習	65	30	95
ファミリーネットワーク	97	108	259
日常生活支援	10	0	10
着物貸出	98	28	126
スーツ	7	2	9
見学	20	0	20
会議室等利用者	298	58	356
まつり等合同行事（8月・11月）**中止**	0	0	0
ハローワーク巡回相談	65	4	69
その他	120	50	170
2022年度合計	**1932**	**373**	**2359**